



第一清掃工場

# 今でもゴミは文化の

# バロメーター？

生活の基本となる衣食住はもちろん、多様化する趣味やレジャーなど、人が活動するところ必ずゴミが出てきます。ゴミ処理にかかる経費は、**第一清掃工場の電気を賄う発電、温水プール等への熱源供給**など有効利用はあるものの、**九九%はゴミとともに消えてしまい、ゴミは少なければ少ないほどよいといえます。**今回は、ふえ続けるゴミについてお知らせします。

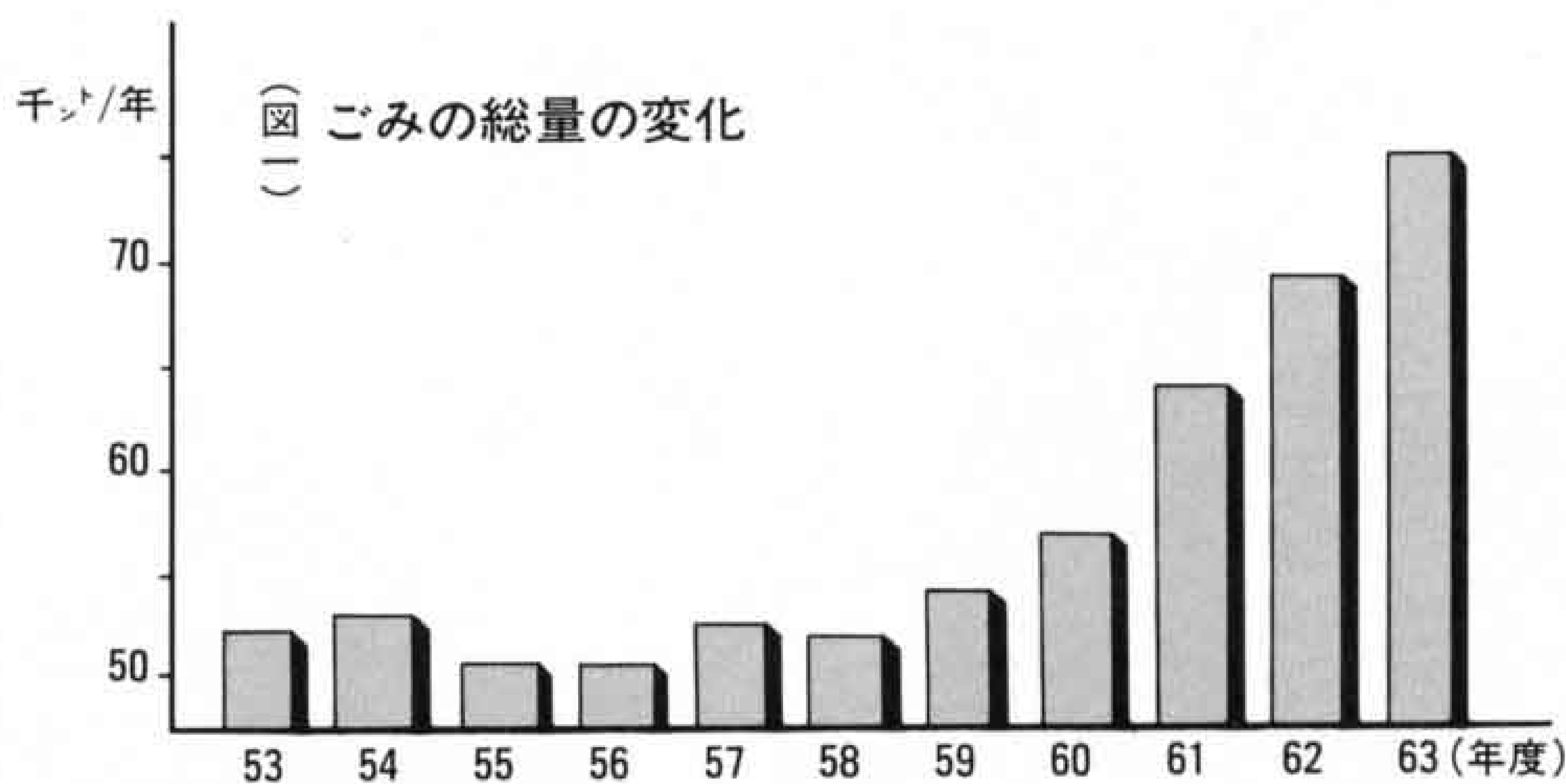
## ゴミの総量

### グリーンと増加

市内のゴミの総量は、昭和五十三年度から六十二年までの十一年間で、四二%増加しました。中でも最近の三年間は、特に高い伸び率を示し(図一)、このままでは、ゴミ処理経費もどんどんふえてしまいます。

市は昨年度、七万四千九百六十トのゴミを十三億九千万円の経費で処理しました。これを市民一人当たり換算すると三百四十ト、六千二百七十円になります。

ゴミ量が急にふえた原因としては、さまざまに使い捨て用品の普及や経済活動の活発化などが考えられ、可燃ゴミの増加が目立ちます。

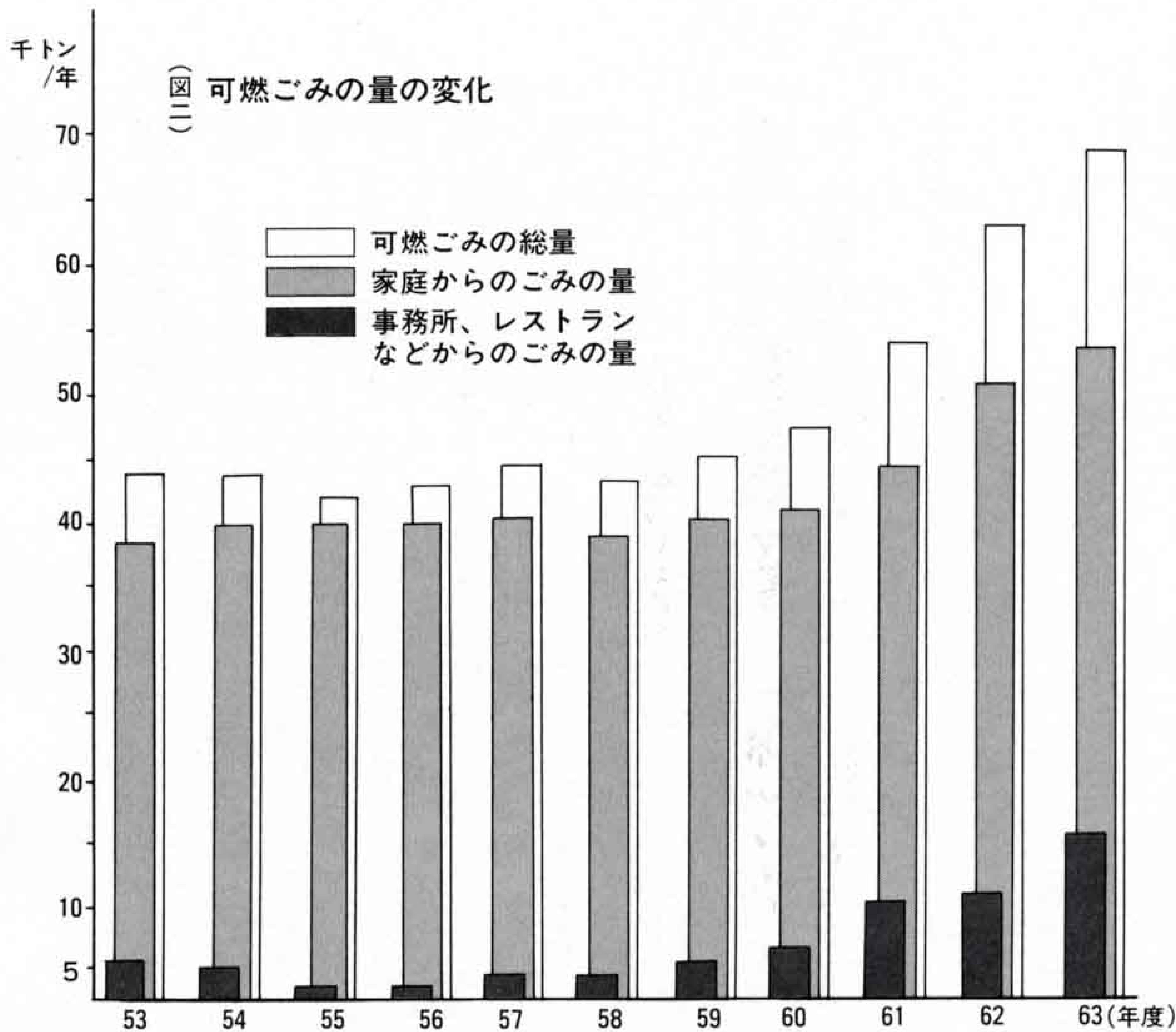


## 可燃ゴミが 増加の主役

ゴミの総量の約八五%が可燃ゴミです。

昭和六十一年九月から第一清掃工場の新焼却炉が稼働を始めましたが、このころから可燃ゴミの増加が始まり(図二)、このままふえ続けると予定より早く焼却能力の限界に達してしまいます。

対応策として、炉の焼却能力を高めるなど工夫をしていますが、いずれにしてもゴミの量の増加を抑えることが、焼却炉の寿命を延ばす最も効果的な対応といえます。工場では、二カ月に一回ゴミ質の分析をしています。その割合は台所のゴミが約四〇%と最も多く、次いで紙・布で、水分の平均は約五〇%、つまり半分は水です。ゴミの減量のポイントは、この辺にありそうです。



### アルミが溶けて 炉を壊す

ごみ質の分析をすると、缶、金属、陶磁器などの不燃物が二、五%必ず混入しています。

焼却炉内の温度は摂氏九百度あり、六百六十度で溶けるアルミニウムは炉の底に垂れ、塊になります。炉は、二カ月に一度運転を停止し点検しますが、毎回五十詰ぐらいのアルミニウムの塊を除去します。今のところ事なきを得ています。

ますが、多量に混入した場合には、燃焼・冷却の役割りをする空気取り入れ口をふさぎ、炉が壊れる可能性があります。

ちなみに、アルミニウム製のピール缶一個の重さは二十gあり、二千五百個混入すれば五十詰になります。富士市の世帯数は約六万四千ですから、一世帯あたり月にわずか〇・四gのアルミニウムを混入しただけで、二カ月に五十詰になるわけです。

まさに「ちりも積れば山となる」ということです。

### 石油化学製品は 可燃ごみ

分別収集で、埋立てごみに区分されていたビニール、プラスチック類などの石油化学製品を、昨年の四月から可燃物として収集しています。これは、水切りが悪く燃えにくいごみにまぜて燃やすと、安定して燃えることが繰り返しの実験でわかったからです。



△炉の底にたまったアルミニウム



田中巳智江さん(松岡)

### 台所の生ごみは 畑の肥料に

六年ほど前、婦人会のあつせんで、底のないふたつきのポリバケツを買いました。それ以来、畑の隅に掘った穴にポリバケツを埋め、台所の生ごみはその中で腐らせ肥料にしています。

少し深い穴を掘れば、三人家族で一カ月はもちます。

処理にお金のかかるごみを、少しでも減らすためにも、畑を持っている人にはぜひお勧めしたいですね。



石川きみ子さん(俵田原)

### 水を切つて 紙ごみの減量

古いストッキングを四つに切り片方を縛って、生ごみの水切りに使っています。

以前は紙製の市販品を使っていたのですが、ストッキングがよいとの話を聞き実際に試したところ、米ぬかがとれるほど目が細かく、しかも強いので、ぎゅうぎゅう絞っても破れません。

流しの隅に置くくず入れにもかぶせて使えると思いますので、ぜひお試しください。



△桑崎松ガ尾の埋立地



### 埋立てごみは減少中

大型の楽器や家具、金属部分が八割以下の家電製品、瀬戸物、刃物などが埋立てごみの仲間です。その量は、昭和六十一年度に五千五百トありましたが、六十二年頃から実験的に石油化学製品を焼却し、翌年度から可燃ごみとしたため約五分の一に減少しました。その結果、埋立地が長期間使用できるといふ利点が生まれました。

### 資源ごみの売上高が一億四千万円に

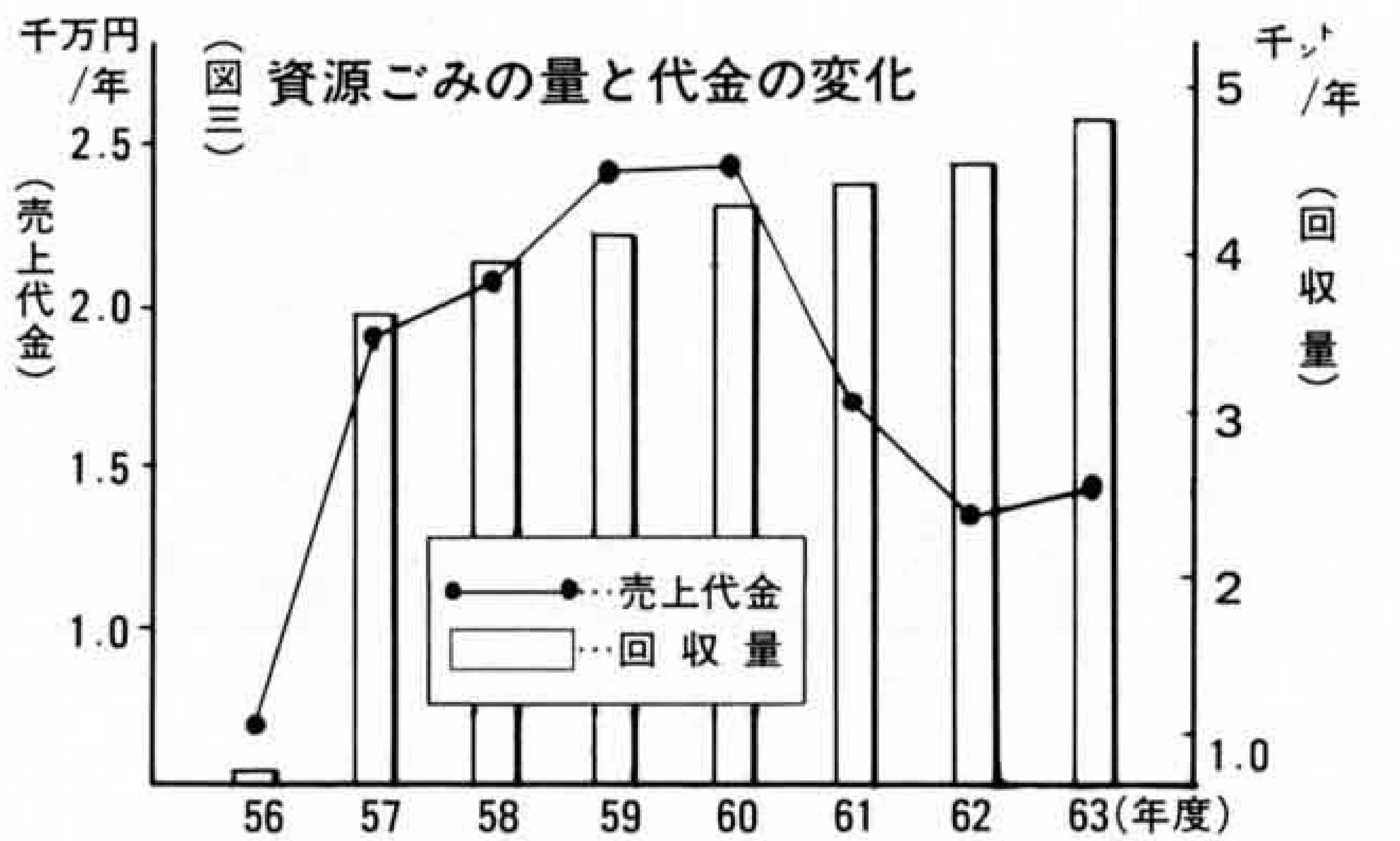
皆さんの御協力を得て昭和五十六年から始めた瓶・缶などの資源ごみの回収も、今年で九年目を迎えています。売上高が総額で一億四千万円を超えました。(図三、金額の合計)  
売却代金は、年二回町内に還元されますが、瓶、缶類は出したコンテナ数、また金属類は世帯数で金額を計算します。  
回収量は年々延びていますが、瓶、缶、金属ともに売却単価が低下しているため、売上高も低下してきています。しかし低下したといっても六十三年度は、千四百万円ありました。(図三)  
単価が下がった原因は、円高や異物の混入による単価の値引きなどによるものです。



△不法投棄の現場

### 不法投棄はしないでね

一般家庭のごみは引越越しごみでも、第一清掃工場で無料処理、また建築廃材などの産業廃棄物は、富士産業廃棄物処理事業協同組合で有料で処理してもらえます。市は、市民からの通報などによ



### ごみの中からリサイクル

り、月一・二回の不法投棄パトロールを実施していますが、昨年度は山間部や河川、海岸などで八十六件の不法投棄を発見しました。内十八件は投棄者が判明し、自分で撤去してもらいましたが、ほかは業者委託で処理しました。その経費は二十七トで百二十七万円、一ト当り四万七千円もかかりました。



△電気技師もいっしょ  
▽自転車は二・三台で一台再生

第一清掃工場の職員は、修理可能な品物を再生しています。再生したリサイクル品は、心身障害者小規模授産施設「ふれあいバンク」に提供していますが、これまでに八回のリサイクル展を開催し、約千点が皆さんのもとに帰りました。  
ごみが多いほど文化的な生活という意味で「ごみは文化のパロメーター」という言葉が使われていましたが、これからは、ごみが少ないほど文化的な生活をしているという意味で使いたいものですね。

ごみについての問い合わせは環境衛生課へ  
内線二四三一